第３６号

柏葉

平成３１年　２月　１日（金）
福島県白河市立東北中学校
発行責任者　校長　芳賀　淳
スローガン「不屈の歩み」

ダンス！ダンス！ダンス！

　現在、保健体育の授業ではダンスの学習を行っています。恥ずかしがらず、体一杯を使って表現する姿はかっこいいですね。寒さで運動量が落ちるこの時期、体をしっかりと動かして、体力向上に努めさせてまいります。

学年朝会で考えました

１月２８日（月）１年生の学年朝会で、集団生活の向上について考えました。

　フランスの田舎のある村に、何十年もつとめあげた牧師がおりました。大変立派な牧師でありまして、長い間村人のために尽くしてきました。百軒足らずの小さな貧しい村ではありましたが、牧師の世話にならなかった家はほとんどありませんでした。村人達も牧師を慕い、大変尊敬しておりました。その牧師が、生まれ故郷に帰ることになりました。引退して子どもの世話になって生活することになったのです。

　村人達は大変残念に思い、何とか引き止めようとしました。しかし、牧師の気持ちを考えると、いつまでも引き止めるわけにはいきませんでした。村の長老が、お礼に何か贈り物をしなければならん、と言い出しました。村人達全員が賛成しました。大変お世話になった牧師様だから、みんな当然のことだと言いました。しかし、何を送るかすぐには思いつきませんでした。

　後日、村人達は集まって、何を送るか話し合いました。「ぶどう酒はどうだろうか。」ある村人が言いました。その村では、どこの家でも自家製のぶどう酒を作っておりました。あまりたくさんは作れませんでした。「**みんなで持ち寄れば、一樽くらいにはなるだろう。**」別の村人がそう言いました。「そうだ。そうだ。みんながお世話になった牧師様だ。**みんなで出し合えばみんなの気持ちがこもった贈り物になる。**」「てまひまかけたぶどう酒には、一人ひとりの気持ちがこもっているはずだ。」「素晴らしい贈り物になるぞ。」村人達は口々に言いました。

　翌日の朝、村人達は持ち寄ったぶどう酒を、村の真ん中に据えた樽に入れました。全員が入れると、ちょうど一杯になりました。村の長老がかたく封印し、牧師に送りました。牧師は大変喜びました。「どうもありがとう。わたしは、このぶどう酒を作るために、皆さんがどれほどてまひまかけているか知っております。そのぶどう酒を皆さんが持ち寄ってくれたことに感謝します。皆さん一人ひとりの気持ちをうれしく思います。」牧師はこう言って村を去りました。

　さて、このお話はこれで終わりではありません。

　不思議なことに、村人達が持ち寄ったぶどう酒の、樽の中身が水になっていたのです。

　この不思議なお話を聞かせ、樽の中身が水になっていた理由を考えました。ある生徒が「最初から水だったのでは？」と答えました。そうです。ぶどう酒を少しずつ持ち寄るはずが、村人全員が「自分だけ水を入れてもわからないだろう」と水を入れたため、樽一杯の水が集まったのです。樽を開けた時、牧師さんはどんな気持ちになったのでしょうか？一人一人の心の持ち方が、いかに大切かを考える機会になりました。さて、このお話の題名は何だと思いますか？

◎インフルエンザの生徒が少なくなってきましたが、引き続き手洗い、うがい、マスク着用で予防を徹底していきたいと思います。ご家庭のご協力をお願いいたします。

★★★　日々の学校の様子は東北中ポータルサイトで　東北中ポータル　★★★